左から
伊藤　留美ちゃん　（５歳、相生町二）
松本　美咲ちゃん　（５歳、相生町二）
古澤　麻衣ちゃん　（５歳、相生町二）

パチリいい笑顔

元気に育て桐生っ子！

（川内二町目雇用促進住宅のお友達）左から
小林新奈ちゃん（３歳）　小林紅輝ちゃん（９歳）
角川優哉ちゃん（４歳）　金子敦也ちゃん（２歳）
星野愛弥ちゃん（８歳）　加門七海ちゃん（３歳）

MYふるさと
きりゅう⑬

いつまでもそのままで そこにあって欲しい

ご子息で指揮者の竜典氏と

東京都渋谷区
沼尻芳枝さん

桐生ふるさと大使

立ち並ぶノコギリ屋根から聞こえるガチャンガチャンという織機の音。私がふるさと桐生を思う時の原風景です。桐生女子高校で毎日、音楽三昧の生活を送っていた私が東京に出た後、主婦業の傍ら、着物の着付けを学び、現在では講師として教壇に立っています。

着物と関わる人生…私の中にはしっかりと桐生育ちのDNAが刷り込まれているようです。

また、高校時代の音楽仲間との交流は現在でも続き、同志で設立した合唱サークルの練習日に、月に一回帰郷するのが最大の楽しみです。

私の実家はすでに桐生にはありませんが、「ふるさとは遠きにありて思うもの」ではなく、私のふるさと桐生は、いつでも気軽に私を温かく迎えてくれる、すぐそこにある実家のような存在です。桐生の町全体が私の実家といっても良いでしょう。二人の子供達も小さな頃は上毛かるたで遊び、夏休みの桐生まつりと八木節を楽しみに育ちました。

息子は、文化会館シルクホール柿落としのガラコンサートを指揮させて頂きましたが、その際の八木節演奏は本当に楽しかったと申しておりました。海外公演でもアンコールの時に演奏すると、外国人のお客様からも大喝采だそうで、桐生っ子魂ここにありと息子のDNAにもしっかりとふるさと桐生が刷り込まれています。

いつまでもそのままでそこにあって欲しい。ふるさと桐生は私の誇りです。

桐生競艇

～12月・1月上旬～

12/ 7・8・9・10・11日
14・15・16・17日
27・28・29・30・31日
1/ 2・3・4・5・6・7日
場外発売　12/1日
20・21・22・23日

表通り裏通り（取材日記）

からくり人形芝居が最後に開かれたのは、昭和三十六年。有鄰館のビール蔵を改装して「桐生からくり人形芝居館」が十一月二日にオープンしました。

取材で訪れた時に、丁度からくり芝居の「曽我の仇討ち」が演じられていました。この曽我兄弟のからくり人形芝居は、子供の頃、本町四丁目で演じられたものと同じで、まるでタイムスリップして子供の頃に戻ったようで、懐かしさから胸が一杯になりました。

皆さんも有鄰館へお出掛けになって、懐かしさを味わってみてください。（大手）

「広報きりゅう」は再生紙を使用しています

■発行／桐生市役所 〒376-8501 群馬県桐生市織姫町1-1 ☎(0277)46-1111　FAX(0277)43-1001 ■編集／企画部広報広聴課（内線505） ■印刷／㈱サンコー印刷
■ホームページアドレス　http://www.city.kiryu.gunma.jp